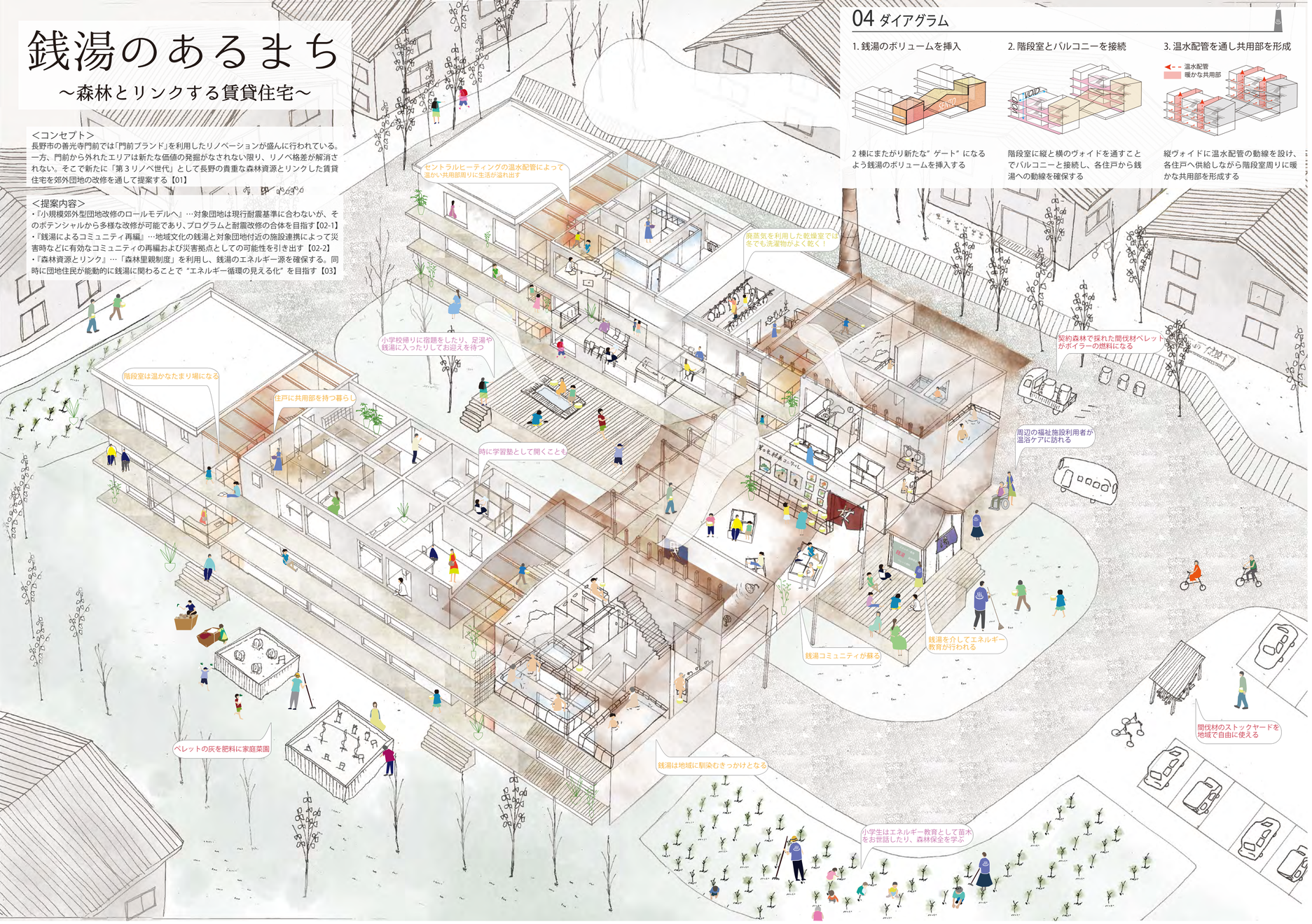
銭湯のあるまち

～森林とリンクする賃貸住宅～

＜コンセプト＞
長野市の善光寺門前では「門前ブランド」を利用したリノベーションが盛んに行われている。一方、門前から外れたエリアは新たな価値の発掘がなされない限り、リノベ格差が解消されない。そこで新たに「第３リノベ世代」として長野の貴重な森林資源とリンクした賃貸住宅を郊外団地の改修を通して提案する【01】

＜提案内容＞
・『小規模郊外型団地改修のロールモデルへ』…対象団地は現行耐震基準に合わないが、そのポテンシャルから多様な改修が可能であり、プログラムと耐震改修の合体を目指す【02-1】
・『銭湯によるコミュニティ再編』…地域文化の銭湯と対象団地付近の施設連携によって災害時などに有効なコミュニティの再編および災害拠点としての可能性を引き出す【02-2】
・『森林資源とリンク』…「森林里親制度」を利用し、銭湯のエネルギー源を確保する。同時に団地住民が能動的に銭湯に関わることで“エネルギー循環の見える化”を目指す【03】



04 ダイアグラム

1. 銭湯のボリュームを挿入

2 棟にまたがり新たな“ゲート”になるよう銭湯のボリュームを挿入する

2. 階段室とバルコニーを接続

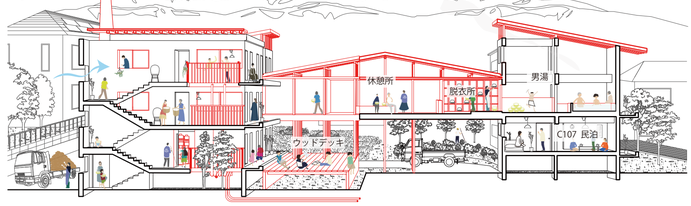
階段室に縦と横のヴォイドを通すことでバルコニーと接続し、各住戸から銭湯への動線を確保する

3. 温水配管を通し共用部を形成

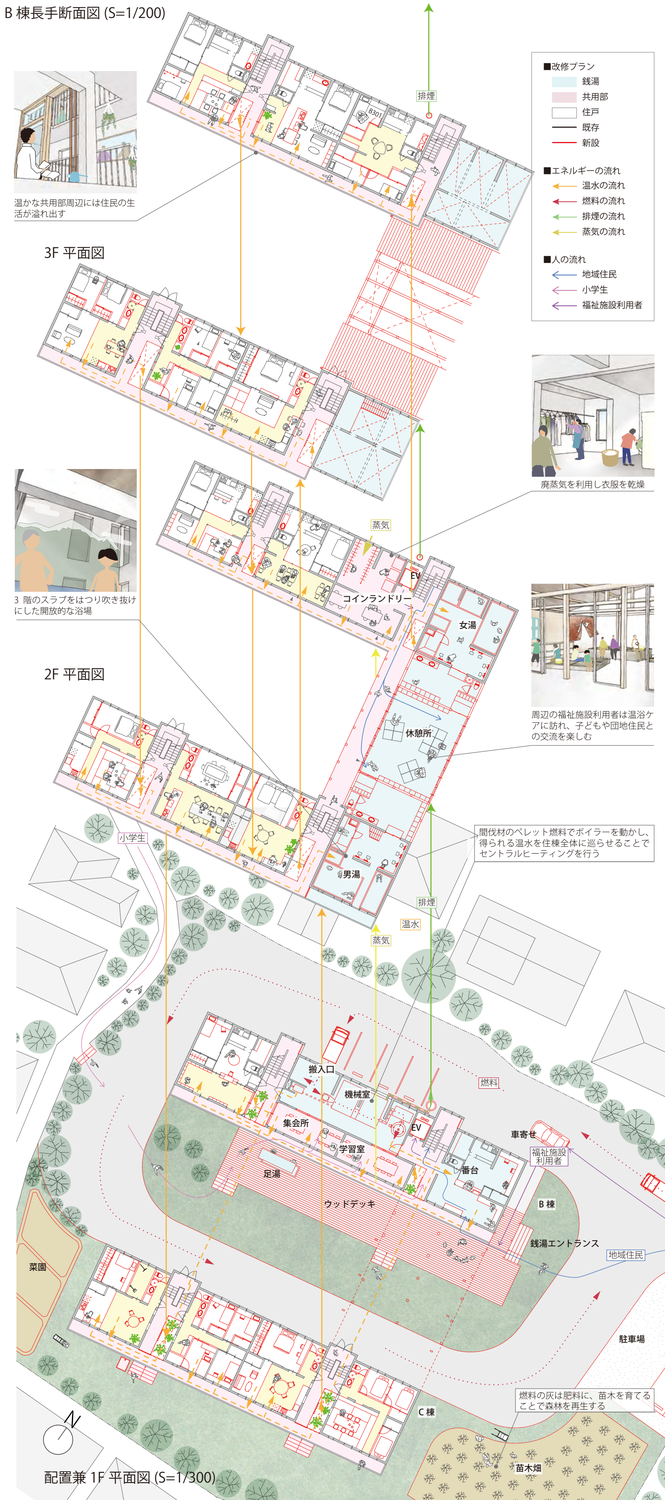
縦ヴォイドに温水配管の動線を設け、各住戸へ供給しながら階段室周りに暖かな共用部を形成する

05 設計提案

２棟の間に銭湯ヴォリュームを挿入することで、耐震性を高めるとともに新たなファサードを形成する。また、銭湯の廃熱を利用した温水を共用廊下、共用縦ヴォイドにまわし、温かい共用空間を設ける。団地の内外で様々なコミュニケーションが可能となる。



B 棟長手断面図 (S=1/200)

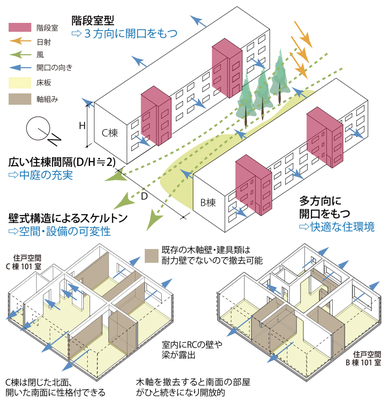


01 長野県長野市の抱えるリノベ格差問題

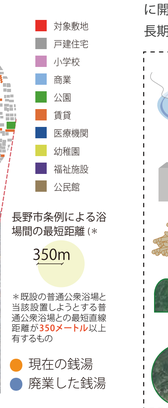
長野市のリノベ格差が解消するため、新たに「第３リノベ世代」として長野の貴重な森林資源とリンクした賃貸住宅を郊外団地の改修を通して提案する。

02 旧電電公社 本郷団地の分析

02-1 本郷団地 (築 48 年) の持つポテンシャル

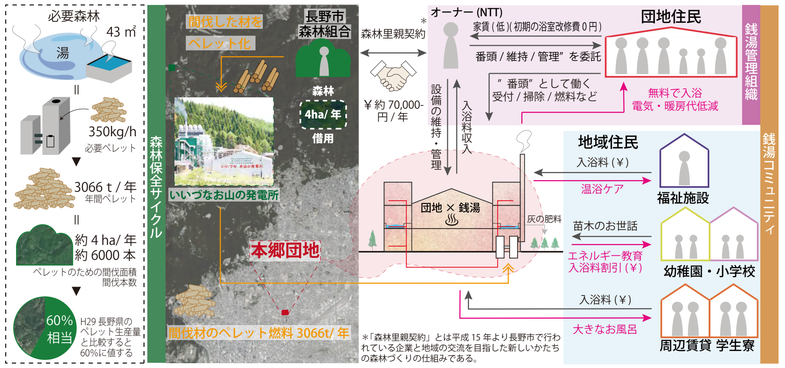


02-2 多様な周辺要素に囲まれる本郷団地



03 団地×銭湯／運営・森林保全・コミュニティのサイクル

住棟の一部を改造し、別棟だった 2 棟をつなげるように銭湯を挿入する。銭湯は住戸ごとに浴室を改修するよりも効率が良く、地域に開かれることでコミュニティーを再編に貢献する。運営にあたっては「森林里親契約」を活用することで長野県の森林資源問題の長期的解決に寄与する。



＊「森林里親契約」とは平成 15 年より長野市で行われている企業と地域の交流を目指した新しいかたちの森林づくりの仕組みである。